

令和2年度 第6回 沼津市中心市街地まちづくり戦略会議  
《議事概要》

開催日 : 令和3年3月29日(月)

開催時間: 開会 午後2時30分 閉会 午後4時30分

開催場所: プラサヴェルデ1階 コンベンションホールA-1

出席者

	氏名	現職等	備考
有識者	岸井 隆幸	日本大学 特任教授	座長
	森本 章倫	早稲田大学 教授	
	小泉 秀樹	東京大学 教授	Web 参加
	福井 恒明	法政大学 教授	
市民	佐藤 清治	沼津市自治会連合会(第一) 会長	
	高田 利昭	沼津市自治会連合会(第五東) 副会長	
	土屋 豊	沼津市自治会連合会(第五開北) 会長	
	栗田 奈穂子	沼津市都市計画審議会 委員	
商工事業者	芦川 勝年	沼津市商店街連盟 会長	
	杉山 金芳	沼津商工会議所 専務理事	
	曾根原 容子	沼津商工会議所 女性会 会長	
交通事業者	木村 誠司	東海旅客鉄道株式会社 総合企画本部 企画開発部 担当部長	代理出席
	堀内 明広	富士急シティバス株式会社 取締役社長	
	鈴木 智善	平和タクシー株式会社 代表取締役	
行政機関等	小川 博之	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	欠席
	大石 剛志	静岡県 沼津警察署 交通官	
	勝又 泰宏	静岡県 交通基盤部 都市局 局長	
	原 広司	静岡県 沼津土木事務所 所長	欠席
	小林 康彦	独立行政法人都市再生機構 中部支社 都市再生業務部 まちづくり支援室 室長兼次長	
	高峯 聡一郎	沼津市 副市長	
	佐藤 雅史	沼津市 まちづくり統括監	
	真野 正実	沼津市 都市計画部 部長	
	平野 明文	沼津市 沼津駅周辺整備部 部長	
	八木 健一	沼津市 産業振興部 商工振興課 課長	代理出席
	村上 浩昭	沼津市 建設部 部長	

## <次 第>

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 事務局からの説明
  - (1) 中心市街地まちづくり戦略の振り返り
  - (2) 令和2年度の活動
  - (3) 中期のまちの姿の実現に向けて
  - (4) 今後の取組
  - (5) 検討事項
- 5 意見交換
- 6 閉 会

## <議事概要>

- 岸井氏**                    今後、公共空間再編整備計画や都市空間デザインガイドライン等に関する検討を進めていくにあたり、どのような事を考えるべきか、不足している点はないか、問題点はないか、あるいは、これからの検討に加えて欲しい点等について、各委員からご意見をいただければと思う。
- 小泉氏**                    資料の説明内容及びスケジュールについて、大きな方向としては問題ないのではないかと思う。今後、様々なプロジェクトを同時に進めていくことになるが、公共空間再編整備計画や都市空間デザインガイドライン、これらに関連する社会実験等を上手くつないでいくことが重要であると思う。それぞれの取組が連携を図ることができるような体制や仕組みについて、事務局の方で何か考えがあれば、教えていただきたい。
- 事務局**                    今年度は、まちづくり戦略会議やワーキンググループ、また、主にまちづくり戦略の内容を説明するとともに、市民のまちづくりへの意識醸成を図る場として、まちなかデザイン会議を2回開催した。公共空間再編整備計画と都市空間デザインガイドラインの作成にあたっては、既存の会議体をベースに検討を進めていきたいと考えているが、有識者の先生にも相談しながら、必要に応じて新たな会議体の組織や委員の追加等についても考えていきたいと思っている。
- 岸井氏**                    各会議体で議論を重ね、最終的にこのまちづくり戦略会議の場で調整することになると思うが、会議体間で矛盾が生じないように連携を図りながら検討を進めていただきたい。また、社会実験の実施にあたっては、関係者の合意を得なければならないため、会議体での議論だけではなく、直接関係者に意見を伺いながら進めていく必要があると思う。
- 小泉氏**                    各会議体同士や行政内部の横の調整、社会実験を実施する場合にはご協力頂くみなさんとの調整等、様々な調整事が今後発生するため、それらを上手く進められるように行

政内部の体制づくりをご検討いただければと思う。

**福井氏**

公共空間再編に伴い創出される歩行者空間をどのように使ってもらおうかということについて、2020年11月に横浜市のみなと大通りで社会実験が実施されていたため、学生と共に訪れたが、上手く空間を使いこなすことができなかった。使うための空間を提供すると同時に、使い手側にもその空間を使うスキルが必要である。もちろん社会実験を実施・運営する側が良い空間やサービスを提供することは重要であるが、市民の人にその空間を使うことに慣れてもらい、実際に使ってもらうための取組が必要になると思う。そのために、例えば、既存の公園で空間を活用する取組を実施してみるなどして、少しずつ使い手側を誘導できるように検討いただくと、空間をつくったけれど人が誰も来ない状況や、人が来たけれどどのように使ったら良いか分からず右往左往してしまうといった状況はなくなると思う。

**事務局**

2020年10月から11月の週末、金・土・日曜日に、中央公園で定期マーケット「週末の沼津」を開催した。このマーケットは、集客イベントとしてではなく、今後日常的にこのような取組が行われるようになることを目的としていたため、大々的な宣伝は行わずに開催したが、多くの方にご来場いただいた。出店者についても、金曜日には6～7店舗程度、土・日曜日には10店舗程度ずつ集まってくることができた。このような取組を来年度も引き続き実施し、最終的に公共空間の再編により新たに使うことができる空間が出来た際に、すぐにその空間を使ってもらえるような体制づくりを進めていきたいと考えている。

また、本市ではコロナによる占用特例で道路空間を使う取組を実施している。このような取組も社会実験の実施時における体制づくり等につなげ、沿道の方々に空間を使ってもらえるように、協議・調整等を進めていきたいと思う。

**岸井氏**

東京の丸の内仲通りで、芝生を設置し、何日間か車の進入を規制する取組が実施されているが、どこからともなく小さな子供を連れのお母さん方がやってくる。宣伝等は行われていなかったが、良い空間が出来たことでお母さん同士のネットワークやSNS等で次第に情報が広がったと考えられる。主催者側はこのような状況を想定していなかったが、実際に心地良い空間をつくると、新しい使い手の方々が出てきて、それが次第に広がっていくなど、様々なことが起こる可能性があると思う。ただし、最初のステップとして使い手がいないと始まらないため、そのための仕掛けを検討していただければ良いと思う。

**小林氏**

グローブパーソン調査やスペースシンタックス理論の分析によりまちの状況が見える化されたため、非常に分かりやすかった。将来の絵姿を実現するためには、市民や沿道地権者、交通事業者など、みなさまのご理解とご協力、共通認識のもとで進めることが非常に重要である。

様々な取組を進める中で最も重要な場所は交通結節点であり、まちの顔でもある駅前広場だと考えている。駅前広場の再編案が資料に記されているが、この絵姿で本当に良

いのか悩ましいと感じている。今後、次世代モビリティや情報通信技術が発達することで、例えばタクシーの待機車両やバス、タクシーを並んで待つ人が極端に減る等の変化が考えられるが、これらを全て読み切るとは非常に難しい。品川駅西口では、MaaSの拠点づくりが進められているが、沼津駅ではどのような形が良いのか、交通事業者や警察をはじめとする関係者としっかりと議論することで、地域に根差し、全国に誇れる駅前広場を目指していただきたい。

鈴木氏

駅前広場の再編案について、2021年2月にタクシー協会沼津・三島支部の役員と事務局で議論させていただいた。その際にタクシーの待機場は現状の24台分を中期でも確保していただくようお願いしたが、今後、自動運転技術の動向や公共交通を取り巻く環境の変化がある中で、ヒト中心の駅前広場を目指すということであれば、地域に根差し、誇れるものとなるように協力していきたいと思っている。タクシー事業者にとって、駅前の待機場の台数は売上に大きく関わるため、神経質になっているところもあるが、今後の台数については、タクシー事業者と事務局とで相談しながら進めていけたらと思う。

堀内氏

駅前広場は市民にとっても、観光客にとっても利用しやすいものでなければならないと考えている。バスの運行頻度を高くし、利便性を向上させるためには、待機車両が駅前広場周辺にいないなければならないが、自動運転や車両の小型化など、バス事業を取り巻く環境も変わってくると思うので、行政と連携し、情報を密に共有しながら取り組んでいきたいと思う。自動運転バスについては、沼津駅－沼津港間の実証実験などを繰り返し行いながら、進めていければ良いと思う。

木村氏

駅前広場は鉄道とまちをつなぐ場所であり、駅からの2次交通をどうするのかは、沼津をどのような街にしていくか、というまちづくりと密接に関わる。まちづくりの考え方の中で、駅前広場における次世代モビリティの位置付けも決まってくるのではないかなと思う。次世代モビリティの社会的な位置付けや技術動向等は日々変化をしているため、今すぐそれを計画に当てはめるということは難しいとは思いますが、柔軟性や拡張性を持たせつつ、動向を注視し、まちづくりと整合の取れた駅前広場を検討していくのが良いと思う。

森本氏

駅というと昔の駅、昭和時代からの駅のイメージが非常に強いと感じており、そのような駅をまちの中心にしようというのは無理があると感じている。これから様々なモビリティを自由に乗り換えながら、使いたいときに使いたいものが出てくるという時代になっていくと、駅も新しい時代に向けて生まれ変わらないと人を惹きつける魅力を生み出すのは難しい。つまり、新しい情報の拠点がまちの中心である駅にあると生まれ変わることができるのではないかなと思っている。例えば5Gは、非常に高スピードで情報を飛ばすことが可能であるが、遠くまで飛ばすことは困難であるため、このような機能を駅に設けることが重要である。また、海外から来られた方等に向けた無料のWi-Fi環境の提供も大切である。このような視点も踏まえた空間整備を検討いただけたらと思う。

また、ヒト中心の空間を目指すときに一番重要なのは、その空間に人々がどうやって

来るのかということ議論することである。沼津市では自動車を利用して来る人も多数いると思うので、来訪者がどこの駐車場に停め、どのような行動をとるのかなど、駐車場に関する検討も必要になる。プローブパーソン調査の結果を見ると、自動車で来た人は一番目的地に近い駐車場に停め、買い物が済むと滞在・回遊せずに帰ってしまうという傾向があるが、これではまちの魅力は出てこない。例えば東京ディズニーランドでは、あれほど広い敷地でありながら、みんなが同じ場所に自動車を停め、歩いてまわるといことが楽しい空間にしている。ヒト中心の空間にしていくということであれば、このような目標像を関係者間で共有しながら、情報ネットワークや駐車場の配置、バスやタクシーの乗降場の配置等が一体となった計画を作っていかななくてはならないと思う。

岸井氏

次世代モビリティはもちろん、現在の計画の中に十分に落とし込まれていない駐車場や自転車の問題などについて更に考える必要があり、新しい技術とコミュニティを繋ぐものとしてシェアサイクルやシェアカー等をこのエリアの中でどのように位置付けていくのかも引き続き検討をお願いしたい。

また、駅、駅前広場と周りの民間の空間は一体であり、駅や駅前広場が良くなればまちが良くなるということではない。まちのそれぞれの要素がどのように機能の連携を図り、空間を共有し、一体的に運営をしていくのが重要である。このことにより魅力が高まるとその高まりに対してどのようにアプローチをするのかといったことが、公共空間再編整備計画と都市空間デザインガイドラインをどこかで繋ぐときに議論として出てくるのではないと思う。例えば、イーラ de 前の歩道を拡幅するだけではなく、イーラ de の建物内部を含めた提案をするのか、それを一体的に誰がマネジメントするのかという議論に次第に広がっていくことで計画が具体化されると思う。駅、駅前広場そして周辺の民間施設の活用を一体的に検討いただけたら良いと思う。

芦川氏

2021年8月に撤退するイトーヨーカドーの跡地利用や町方町・通横町地区の再開発事業について、出来るだけ早い時期に何らかのアナウンスをいただけたらと思う。

また、駐車場については、コロナウイルス感染拡大の影響でリモートワークが浸透したことにより、企業の利用が減少するなど非常に厳しい経営状況になっていると聞いている。このような地域の現状を踏まえて検討を進めていただきたい。

高田氏

イトーヨーカドーの撤退やコロナウイルスによる生活環境の変化など、地域住民を取り巻く環境が大きく変わろうとしている。駅周辺にどのように人を呼び込むのかを考えたときに、買い物という切り口のみでは、ネットショッピング等の普及もあり、なかなか難しいと思う。しかし、消費者側も家にこもっていれば良いのかというと、健康等の問題もあり、そうもいかない。どのように人々に家の外に出てもらい、健康的な生活を送ってもらうかという視点も駅周辺の再編計画に求められているのではないと思う。

第五東地区には多くの地域資源があるが、地域の人達があまりこれらに気付いていない現状がある。そのため、地域の人達に地域の良さを知ってもらい、明るいまちづくりに繋げていくという目的で、お祭り等の取組を実施している。我々地域の間もこのよ

うな形で地域を盛り上げる取組を行っており、その延長線上にこの駅周辺の再編計画があると思っている。

また、沼津駅の暫定南北自由通路が概ね10年後に整備されるということだが、駅南北の人の往来を考えると、もう少し前倒しで実現できると様々な効果が出てくるのではないか。

岸井氏

駅周辺は、買い物や観光だけでなく社会に参画する場としてもとても重要であり、そのためにも南北自由通路がなるべく早く使えるようにならないかというご意見であった。引き続きご検討いただければと思う。

栗田氏

駅前広場の再編など、駅前のまちづくりを行うことも大切だと思うが、駅周辺の居住に関してはどの程度考えられているのか。昔の沼津のまちなかは、商業施設もたくさんあり、何もしなくても人が集まってくる状況であったが、最近では人口も減り、魅力がない駅前となってしまっている。そのような状況を踏まえると、駅周辺に人を集めるだけではなく、住んでもらうようにすることも重要である。そのために、例えばイトーヨーカドーの跡地に学校を建てるなど、人が住みたくなる環境をつくる必要があるのではないか。もちろん商業施設があることで人を集めることもできるので、駅前に買い物ができるような魅力的な店舗が増えると良いと感じている。

公共空間の再編は概ね5～10年後を見据えた計画とのことであるので、若い世代の意見も聞きながら検討を進めていただきたい。

岸井氏

ネットで買い物をするのが当たり前になりつつある状況の中で大事なことは、単に物を買うだけではなく、体験や経験をする、時間を共にする、チャンスがあるなどの付加価値が存在するということであり、それらを求めているのが若い世代の人々である。駅前広場の中にそれらを全て取り入れることは難しいため、駅周辺のエリアも含めて一体的にご検討いただければと思う。

居住については、立地適正化計画の考え方を踏まえながら、どこにどのように住んでもらうのか、それをどのように誘導していくのかを考えていけると良い。

事務局

中心市街地まちづくり戦略の戦略Ⅲとして、「まちなか居住の促進と市街地環境の向上」を掲げているが、まちなか居住については住宅施策検討会を設け、その中でまちなか居住を増やしていくための施策を検討している。現在、まちなかに空きビルや空き店舗が散見される中で、1階2階の低層階は商業施設に適しているが、3階以上はあまり適さないという側面があることから、そこを居住に使うことができないかといった検討をしている。次年度以降もケーススタディをしながら、まちなか居住について検討を進めていきたいと考えている。

芦川氏

イーラ de 周辺の風の問題を考えていただきたい。風の強い日には、イーラ de の南側の出入口からは建物に入ることができず、向かいの仲見世商店街ではアーケード下に装飾等を設置できない状況になっている。また、駅前街路の2車線化について、地元の自治会や商店街向けに説明を行っていただきたい。

- 曾根原氏** 来年度実施を予定しているイーラ de 前の社会実験はどのような内容を想定しているか。
- 事務局** 週末に限らず、ある一定期間パークレット等を設置することを想定している。
- 曾根原氏** 風の強い日は、お年寄りが青信号の時間内に横断歩道を渡り切れない状況となっており、警察に対応をお願いした程である。特に風が強い日には、警察による交通整理も実施されており、社会実験を行うのであれば、風への対策も十分に検討する必要があると思う。
- また、駅前広場内に一般車を入れないようにする考えは良いと思うが、バスの運行本数が少なくなっていることなどもあり、駅に自動車を送り迎えをする家庭も多いと思うので、それらを踏まえて一般車乗降場の分散化について検討いただけると良い。
- 勝又氏** 貨物駅の土地の取得以降、市民の皆様から鉄道高架に対する期待が多く寄せられており、今後、よりスピードアップして進めていかなくてはならないと感じている。
- まちづくり戦略会議という言葉は、市民の皆様にも周知されてきたと思うが、具体的などのようなことをしているのかということについては、まだ十分に周知しきれていないと思われる。静岡県でも、沼津駅と沼津港を結ぶ自動運転の実証実験を年明けに実施したが、なかなか周知が上手くいかない状況であった。市民にこの駅周辺の取組に目を向けてもらえるように引き続き努めていただければと思う。県道を管理する立場でもある静岡県としても、沼津市に全面的に協力させていただく。
- 小泉氏** 社会実験を市民の関心を醸成するための場として、また、一緒にまちなかを再生する仲間づくりのための場として有効に活用していただけたらと思う。
- また、まちなか居住に関連して、沼津市においては、まちなか回帰の流れが少しずつ見られていたと思うが、昨今のコロナウイルスの影響でその流れがどのように変化したのか気になるところである。別の機会で構わないので、教えていただきたい。
- 福井氏** 大変貴重な意見が多く、総合的な施策として進めていく必要があることを改めて認識した。駅前広場を整備するときにイーラ de や仲見世商店街側に目を向けてしまいがちであるが、空間特性分析の結果において、(都)沼津駅沼津港線の東側エリアの値が低いことが課題であると感じている。駅前広場が沼津の中心として機能するためには、民間の土地における低層部の活用も含めて、このエリアとどのように繋げていくのか検討いただきたい。社会実験についても、実施する場所によって機能や求めるものが異なるため、メリハリをつけて検討してもらえればと思う。
- 森本氏** 中期計画の駅前街路の再編案をみると、道路中央のゼブラが多く、もったいない印象を受けた。交差点部は、車線変更ができないため、道路はまっすぐにという基本があるが、将来的に自動運転車両が普及し、このエリアの中をゾーン 30 等で自動車の速度を落とすことができれば、線形を見直して路肩の部分に空間をつくることも可能になるかもしれない。例えば、タクシーの乗降場や荷捌きの空間をつくるなど、道路のカーブサイドの作り込みの仕方にアイデアを出せるのではないかと思う。警察等と協議する際に

線形が直線でなくても良いかというところから少しずつ始めていってはどうかと感じた。

岸井氏

公共空間再編整備案の検討については、今後ディテールを詰めていく必要があるため、警察のご協力も頂戴したい。交通運用や信号現示も含めて、柔軟に検討することが重要である。

また、その場所を上手く使ってもらうためには、使い方をあれこれ制限するのではなく、自由度を上げる必要があり、例えば、社会実験では責任は自分で負うくらいの感覚で、みんなで一步踏み込んでみてほしい。そこには、新しい技術の導入や若い世代の意見の反映など、少しチャレンジングな取組があると良いと感じている。世の中には社会に参画したい人がたくさんいると思うが、どこでどう繋がれば良いかわからないといった人もいるため、そこに行けば誰かに会うことができ、誰かと話すことで何か生まれるかもしれないという期待感を持ってもらえるような空間が駅の周りに出てくると良いと思う。空間を使い勝手の良いものにするため、使い手の方々からも意見をもらえるような機会もどこかで必要だと思う。専門家の意見の整理ももちろん必要であるが、使いこなすのは市民の方々であるため、しっかりと意向等を聞き取りながら進めていただきたい。

以上